

院外茶話

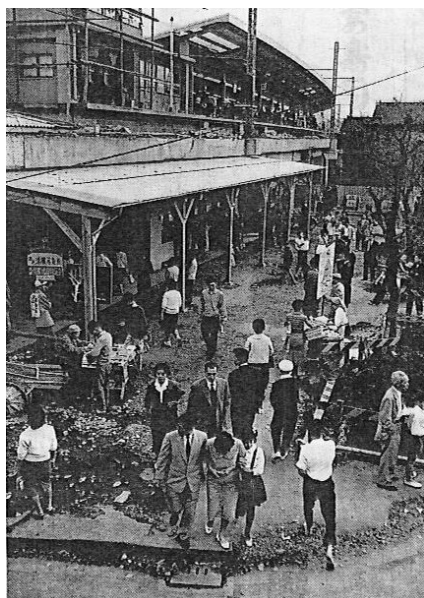
vol.107 平成 26 年 4 月 1 日

自由が丘の 50 年
振り返ってみれば
かつてない
激動の時代だった

自由が丘 開店・閉店

自由が丘という名前がついたのは、昭和 4 年 10 月 12 日。この日が自由が丘の誕生日だと思う。

我が家がここに引っ越してきたのは、それから 30 年もたってからのことで、二階建ての駅を改築しているところだった。東横線のホームは大幅に延長されたと聞かすが、残念ながらその前の駅を知らない。



昭和 34 年の自由が丘駅。産経新聞より。

駅前には掘り返されて、雨の日にはあちこちに水たまりができた。人幅くらいの板が何本も渡されて、この上を歩けば水たまりは避けられたけど、柳の枝が顔にあたっとうっとうしい。駅前の広場にいっぱいあった柳は、いつの間に

か切られてしまった。

自由が丘は見違えるほどきれいになって、東急電鉄の大井町線と東横線が交差をする街は、城南の中心都市となった。

その東急の電車といえば、もともと紺と黄色のツートンカラー。駅の工事が完成すると、東横線だけに緑色で、丸みを帯びた新型車両が誇らしげに走り始めた。愛称を「青がえる」という。この時代、大井町線は少し差別をされていたかもしれない。

駅前には時の総理大臣も演説にやってきた。池田勇人元首相のことで、高度経済成長と所得倍増を叫ぶ選挙カーのまわりには、黒山の人だかりができる。

子供だった私は群衆の間をすり抜けて、池田首相の目の前に立ったけれど、見向きもされなかった。



現在の自由が丘駅
一誠堂のご好意で 3 階からの眺め。

駅前の自由が丘東急ビル（旧東急プラザ）は昭和 37 年に建てられた 9 階建てのビルで、かれこれ 50 年以上になるが、今でも自由が丘にはこれより高い建物がない。

遠くの方まで視界を遮る建物がない。それだけ空があるということで、すこし高台に立てば、九品仏の木々が見渡せる。私はこの景色が好きだ。



昭和 26 年撮影。産経新聞より。



楽天地はシラカバ通りになった。

駅前には三井銀行（現 SMBC 銀行）があって、その横にある小道を楽天地と呼んだ。

「楽天地！」

何と素晴らしい響きだろう。もし、どこかに旅をした時に、楽天地という通りがあったら、私は必ず行ってみるだろう。

楽天地を奥に入れば、バーやスナックがひしめく繁華街で、キャバレーもあった。店名は確か真珠と言った。他にもいきな名前がたくさんあって睦坂や本通り、美観街など。

今、楽天地はシラカバ通りが変わってしまって、他の道もカタカナばかり。長年地元に住んでいるけど、ナントカ通りと言われても、このことかわからない。

かつて駅から我が家に向かう道を広小路通りと呼んだ。古美術商に甘味処、酒屋が並ぶ。

甘味処の大学芋は、店先で素揚げをしたサツマイモを蜜にくぐらせるもので、その場で熱々を口に入れる。夏場は大学芋の代わりに、かき氷の幟が立った。

数軒先には酒屋があって夕方ともなると立ったまま、さきイカをくわえて、コップ酒をあおる大人でいっぱいになった。この時間帯には、店の前を通るだけで、酒の臭いが漂って不快。

もともと、今では自分が加害者の立場になったので、飲んだ時には極力子供に近づかないよう、心がけてはいる。

今のスポーツジムは、もともと料亭と小さな寿司屋があった。二階のお座敷からは夜毎、野球拳のお囃子が聞こえてきたけれど、芸者衆は一体どこから来ていたのだろう。石川達三氏の「青色革命」に出てくる料亭は、この大島屋がモデルになったと聞かすが、小説に登場する女将のお須磨さんとは誰のことか。

古い町並みを想えば、それはアルバムを開けるのと同じ。

広小路通りには他にも銭湯、八百屋、魚屋、肉屋さんがあったけれど、この順番でなくなっていった。代わりに大丸ピーコックができたのは昭和 43 年、東急自由が丘店は昭和 56 年である。

変わったのは流通機構ばかりではない。豊かになった生活形態が街を変える。

表具、呉服を扱う店は、一つずつなくなった。炭屋が店を閉じた。しばらくは代わりに灯油を売っていたけど、これもやめた。めっきり少なくなったのがタバコ店で、国民的な禁煙傾向の結果である。

不思議だったのは自由が丘デパートの中にいくつもあった金物店が、次々と店をたたんだこと。理由はアルミサッシの普及だそうで、当時、一番の売れ筋だったのが引き戸のレール。これが売れなくなってしまったから。

自由が丘デパートの地下には、小さな製麺所のようなうどん店があって、器械から 30 センチ幅のうどんが押し出されてくるのが見えた。これを細く切って、一人前の塊にして箱に並べて、一ついくらだったか。

娯楽と言えば映画。最盛期には 6 つもあった映画館だが、テレビの登場とともに活気を失って、最後に残った武蔵野館が 53 年間の歴史に幕を閉じたのは平成 16 年。自由が丘から映画館がなくなった。

街は変わる。変わって当然だが、あまり急な変化はよくない。

古い店がぽつんぽつんと消えて、その間に若い人が新しい店を作って、チェーン店も混ざって、町内の餅つきのおきには、みんな出てきて、餅をつけばよい。